

第10回

# 「勇気ある」 経営大賞

## きょう顕彰式典 絶え間ないイノベーションを

東京商工会議所は、11日、東京都港区のANAインターコンチネンタルホテル東京で、第10回「勇気ある経営大賞」の顕彰式典を開き、革新的な技術を開発するなど、創造性にあふれる中小企業やベンチャー企業を顕彰する。今回は164社が応募し、大賞に1社が選ばれたほか、優秀賞6社、特別賞2社がそれぞれ選ばれた。顕彰の意義や取り組みについて、岡村正会頭に聞いた。

### 創造性にあふれる中小・ベンチャー企業が多数

——「勇気ある経営大賞」は今年で10回目を迎えました。会頭は、本顕彰制度についてどのような役割を期待されているのでしょうか

東京商工会議所の会頭就任後、5年がたちました。就任以来、勇気を持ってイノベーションを絶え間なく引き起こしていかないと、今後の企業経営の活路は見いだせない、ということをごさざまな場で繰り返し申し上げてまいりました。「勇気ある経営大賞」は、まさに私の申し上げてきたイノベーションに勇気を持って取り組んでこられた中小企業を顕彰する制度であり、今年を受賞企業の中にもイノベーションのお手本が数多く見られ、嬉しい限りです。

わが国の中小企業を取り巻く環境は、超円高・株安基調の継続や欧州の財政金融不安、中国経済の減速、電力問題などにより、大変厳しい状況にあります。今年も164社もの企業からご応募をいただきました。応募社数という量もさることながら、質的にもレベルの高い企業が多く、昨年と同様、大変難しい長時間にわたる選考になったと選考関係者から聞いております。

——大賞を受賞された1社についてお聞かせ下さい

日本レーザーは、レーザー専門商社として輸入販売だけでなく、独自に技術部門を擁し、多様化・高度化するニーズに対する適切な技術提案やサービスを実現しています。

同社の特徴は、経営形態にあります。かつて赤字会社だった同社が、現社長による思い切った経営改革によって再建に成功し、さらには親会社から独立させて、全ての社員が株主(MEBO※)となりました。「企業は社員にとって自己実現の舞台」と位置付けることにより、社員のモチベーションを高めて業績を伸ばしています。

※MEBO(Management and Employee Buyout)…経営陣と従業員が一体となり、対象企業の株式を買い取り経営権を握ること

——優秀賞には、6社が選ばれました  
鬼塚硝子は、叩き上げの熟練硝子職人である社長自らが「匠」として、若い研究者とのチームワークを発揮し、スピード感ある研究開発で、世界初の製品を次

々と開発している企業です。

清田製作所は、もともとはカメラ部品やレコード針のメーカーでしたが、高い技術力を活かし、半導体関連産業に参入しました。半導体の微小探査装置の開発に国内で初めて成功するなど、時代の変化に適合した製品作りをしてきました。

コヤマドライビングスクールは、自動車教習所における新たな事業展開の方法を世に示しました。時代に適応すべく、女性インストラクターを早くから採用。また、外国人や障がい者向けの教習などの、新規プログラムの実現に向けて、長い月日をかけて認可を取得した結果、多くの人の免許取得に貢献してきました。

田中医科器械製作所は、独自のコア技術を活かし、医療現場の負担軽減に大きく貢献しています。大正5年の創業以来、人材育成に力を入れており、最近では、職場環境への配慮に注力するなど、社内改革にも積極的に取り組んでいます。

ダイヤ精機は、創業者の急逝によって事業承継した現社長が、勇気を持って経営改革を断行しました。最初は社員の大反発を受けましたが、最後は社長と社員が一体となった取り組みに発展し、経営危機を見事乗り越えました。

武州工業は、自動車メーカー向けに金属パイプなどを製造する企業ですが、「1個流し」という全行程の生産を1人の多能工が受け持つ生産技術を進化させ、世界と戦える品質と価格を可能にしました。最近では医療機器産業への進出を果たし、その後も挑戦を続けています。

いずれの会社も、時代のニーズを的確にとらえて、自社の強みを活かして勇気ある事業展開をしてきました。

——特別賞には、2社の企業が選ばれたようですが

特別賞は、非常にユニークな取り組みと、キラリと光る個性を持った企業に贈賞しています。

山万は建設業ですが、自然と都市機能の調和をテーマに、戦後初の民間による鉄道事業免許の取得など数多くの挑戦を続けてきました。目先の利益を追わず、長期にわたり、地域住民と共に持続可能な街づくりをしてきました。

ユーグレナは、世界の食料問題と環境

東京商工会議所会頭、日本商工会議所会頭

東芝相談役 岡村 正氏



おかむら・ただし 東京大学法学部卒。62年東芝入社。社長、会長を経て現在相談役。07年、東京・日本商工会議所会頭。74歳。東京都出身。

問題の解決という壮大な目標を掲げ、ミドリムシの商業大量培養に世界で初めて成功しました。バイオジェット燃料の生産に向けて大手企業との連携による技術開発への挑戦を続けているなど、大きな期待が持てる企業です。

——受賞企業の特徴を総括すると、今後、中小企業がイノベーションに取り組む道筋が見えてきそうですね

そうですね。コヤマドライビングスクールは、少子高齢化の影響を大きく受けている自動車教習所業界にあって、次々と業界の常識を打ち破る施策を打ち、事業を発展させています。清田製作所は、レコード針市場の縮小に直面したのち、持てる技術を活用して半導体産業に進出しました。

——受賞企業の主な傾向を分類するとどのようなようになりますか

今年を受賞企業を見渡してみますと、人的資源に着目した事例が多く見受けられます。日本レーザーの会社活性化は、社員の存在がなければ成しえませんでした。製造業では、ベテラン社員から若手への技術伝承を続けて、高い技術力を発揮し続けているダイヤ精機、田中医科器械製作所、清田製作所などがあげられます。また女性の積極登用では、コヤマド

ライビングスクールがあがります。

また今年も医療、健康分野での挑戦が多く見受けられました。

学名:euglena(和名:ミドリムシ)をそのまま会社名にし、非常にユニークかつ壮大な計画を描いているユーグレナ、自動車関連産業から参入を果たした武州工業、いま新たに挑戦中のダイヤ精機、そして本業として匠の技を絶やさないよう環境を整えている田中医科器械製作所があります。

そして最後に受賞企業に共通しているのは、明確な経営理念が、経営者の強いリーダーシップによって、実践されていることです。

——今後もさらに回を重ねていくと思いますが、どのような展開や発展を期待されているのでしょうか

今回も23区外からも多数の企業のご応募がありました。世間での認知度が上がってきていることを実感しております。一方で、他の表彰制度の受賞企業や、展示会などの出展企業を見てみると、素晴らしい企業はたくさんあり、23区内でも発掘しきれておりません。推薦機関の協力を得るなど、発掘しきれていない宝の山から優れた企業を見い出して、イノベーションのお手本として世間に公表できるよう努力して参ります。